

けんしゅうしましよ



9月20日（金）帯広小学校教育研究発表会

◇事後研のグループ討議、アンケート結果から◇

<のぞみ>

児童の実態に応じた課題設定

実態に即して授業が考えられていた。児童の体験に基づいた動画を見せることで、つまってみようという意欲につながっていた。動画を活用することで行動を客観視でき自己理解につながる。

集中を保つ学習展開

2つ目の動画を見たときに気づきがあり、どうやってはなしかけたら良いかがわかっていた。「もう一回やりたい」や、「楽しい」などの言葉が児童から挙がっていてよかった。

教師の関わり

穏やかな雰囲気が進められていてよかった。動画の続きを提示したときの児童の気づきを活かし、上手に声掛けができていた。最後に、実際に使ってみることについての話が教師からあり、意欲につながっていた。

その他

授業の振り返りのしかたや教材の動画について質問があり、振り返りシートの選択肢の作り方や児童の実態に応じた教材選択についての交流が行われた。



<こもれび>

のびのびと活動する姿

児童がのびのびと活動する姿が見られた。特に場面演技では、言葉や動きで自由に表現する姿が見られてよかった。思いやりの気持ちと児童の成長を感じた。話すことが苦手な児童への教師の接し方や言葉かけへの配慮が感じられた。自校の授業研で、同様の単元に取り組んだが、相手の気持ちや伝え方を理解することは難しかった。子どもが自主的に活動する姿や学習することの意義を伝えることが大切。

学習環境・教材選択

学級の子もたちと教師がリラックスして自然に取り組む姿や、子どもたちのこれまでの活躍を振り返る場面がよかった。「学習のあしあと」の掲示や教室内の教具から、ビー玉を活用した実践にも興味を持った。

「人生ゲーム」の実践にもぜひ取り組んでみたい。

交流の場面

6年生児童がリーダーシップを発揮して話し合いを進めようとする姿に成長を感じた。授業の導入でロイロノートを使う様子を見て今後活かしていきたいと感じた。児童の興味をひきつけ、その後の交流にスムーズに入るようになっていた。

その他

- ・体制づくりについての質問があり、本校の特別支援体制の経緯や他校の様子との交流が行われた。
- ・体力作りと道具の使い方についての質問があり、合同ステップタイムや体幹運動の取り組みとはさみなどの道具を使わせる際のルール作りについて交流が行われた。

<ことば>

意欲を高めるための、児童主体の学習

単音の練習ではカードを自分で動かす、単語の練習ではスライドを自分で操作していく等、児童が学びを主体的に進めることが意欲の向上や集中力UPにつながっていた。

児童の言葉を引き出す、良質の質問と会話づくり

自由会話において児童からの話の引き出し方が秀逸であった。適度に質問し、自然に誘導しながら子どもがたくさんおしゃべりできるようにしていた。

強みを更に伸ばす

児童の苦手な面だけでなく、得意な面を伸ばそうとする内容が盛り込まれており良かった。大切な視点であると感じた。

専門知識やスキル向上について

通級指導・言語学級の授業公開の機会は非常に少ない。指導を担当するようになってから、どのようにスキルを身に付けていけばよいのかと悩んでいたところに貴重な授業公開の機会があったので参加した。実際に授業を見て学ぶことができよかった。この機会を通してできた繋がりを大切に、学びを深めていきたい。



◇助言者の先生から◇

◀横山指導主事より▶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

成果

○日々の「積み重ね」「繰り返し」「継続」の中で児童に身に付くものがある。例えばこもれび2組授業の初めに設定されていたトレーニングなどは大切にしてもらいたい。

○しっかりと児童の実態把握をし、授業の終わりには振り返りシートで子どもの伸びも把握して次の授業につなげている。

○興味関心を高める授業構成がされていた。特に自閉症の児童は興味関心の限界があり意欲的になれないことが多い中、とても工夫されていた。

授業改善のために…

【主体的】をキーワードに！

どの困難さを、どんな方法で、解決していくのかを児童が選べるようにする。学びの目的やそのための目標を自分で設定することを大切にし、さらに「あの場面で使ってみよう」と思える、実生活に結び付く授業展開にしていくことを大切にしてほしい。

【学習の個性化】を目指して！

指導の個別化（児童の実態に合わせて個別の目標を立て手立てを講じる）は十分に行われている。今後は更に、どんな方法で学ぶか、どのくらいの時間をかけるかなどを児童が選択し、上手く行ったり、時には失敗したり、飽きてしまうこと等も経験しながら、「自分の学びやすさ（学びにくさ）」を自覚し自分に合った学び方を見つけられるようにしていく。

◀高橋指導主事より▶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

成果

○自立活動＝コミュニケーションとならずに、個の実態に応じた授業を行うことは大切。例えば、知的学級では発音の不明瞭さを課題と捉えて、口の体操を行っていた。

よりよい支援のために…

【自立活動と共同学習の往還を大切に】

児童が何を目的にどんな目標を立てて学んでいるかを、共有することが大切。交流学級・所属学級で自立活動で学んだ成果が出たときには瞬時に価値づけることで、児童の成長につながっていく。

